

Nux moschata ナツメグ [日中の激しい眠気と粘膜の乾燥]

Myristica fragrans Houttun

BACK GROUND

Nux moschataは、インド洋モルッカ諸島のパンダ島原産で、ニクヅク科ニクヅツ属の常緑高木植物であるニクヅクです。属名のMyristicaは、ミルラmyrrh(没薬)の香りという意味で、種小名のfragransは芳香があるという意味です。



(A)

ニクヅクの樹高は10～20mほどに成長します。ニクヅクの葉は、長さが6～15cmほどの先の尖った大きな楕円形で、革質です。花は、黄白色の壺状の形をしています。

花後に5cmほどの洋ナシ状の球形の実になります。この実の両側表面に浅い溝があります。その実が熟すると、その溝に沿って裂けて外皮に包まれた種子が出てきます。通常、種子は1個の実に1個入っています。この外皮をメース、種子はナツメグと言います。英語のナツメグNutmegは、Nut豆とMegムスクを足して、ムスク様の香りの豆という意味です。

この種子は、長径約3cmの卵円形で、外皮は硬く黒褐色を呈しています。この硬い種皮を剥くと、内部に灰褐色で長径約2.5cm、短径約2cmの胚乳が入っています。

これらのメースとナツメグはともに、スパイスとして利用されるほか、さまざまな疾患の治療薬にもなっています。メースは、インドの伝統医学アーユルヴェーダで風邪、喘息、結核、心臓病、胃腸疾患をはじめ、さまざまな疾患に効くとされ、中国にも伝わっています。現在は、どちらも健胃作用、食欲不振や消化不良の治療薬として利用されています。

またこの植物は、簡単に手に入る幻覚誘発薬としても有名です。これは種子に含まれているミリスチンと

いう成分が、メスカリンなどと類似した化学構造をしているためです。その作用は、やや大麻に似ていますが、ナツメグを摂取した後は、幻覚作用のほかに、めまいや口渇、酩酊感、心悸亢進、火照り、眼の充血、吐き気、パニック、運動失調、眠気などの副作用を起こします。多量摂取では、サフロールという成分が、肝臓に負担を及ぼすことなどがわかっています。

この実の主な成分には、サビネン、リモネン、リグナン、サフロール、 α -ピネン、 β -ピネン、ミリスチン酸、ミリスチン、カンフェン、リナロール、ユージノール、各種ビタミン、ミネラル、精油などがあります。

MATERIAL

この植物の実

FIRST PROVING

Helbig (1833)

MIND

Nux moschataタイプは、感情の起伏が激しく、大きさに反応したり、過度に興奮する傾向があります。何にでもクスクス笑ってしまうことがあります。今いる世界があたかも夢のように感じたり、時間や空間の感覚が歪んでいるように感じる場合があります。千里眼的なことを言うことがありますが、本人はあまり意識していません。日中に強い眠気が来ます。とくに子供や年配の女性には、効果的なレメディです。

AFFINITY

Nux moschataは、主に精神、感覚中枢、神経系、女性生殖器、消化器系に作用します。

CLINICAL APPLICATIONS

このレメディの大きな特徴は、日中の激しい眠気(意識混濁状態)と粘膜(とくに口腔内)の乾燥です。

■神経系

・激しい眠気：日中、とくに妊娠中や寒けがするとき、発熱時などに激しい眠気が襲います。眠くて起きていることができません。夢うつつになり、自分が今何をしてたのか忘れてしまうことがあります。今、読んでいたこと、話していたこと、書いていたことも忘れてしまいます。

- ・めまい
- ・老人の嗜眠状態：ホメオパシーでもあまり強い効果は期待できません。
- ・アルツハイマー病
- ・抗精神病薬の乱用
- ・意識混濁
- ・ナルコレプシー

消化器系

- ・胃内空気貯留：ガスが溜まりやすく、食事をすると何でもガスになってしまいます。
- ・鼓腸性消化不良：口の中が乾燥していますが、喉は渴きません。
- ・便秘：便は軟らかいのですが、排出困難です。排便中や排便後に意識が遠のいてしまうことがあります。
- ・乳幼児の夏の下痢
- ・新生児の便秘：疝痛を伴います。
- ・口内乾燥症：口の中が乾燥して、舌が口腔蓋に張りついてしまうことがあります。喉が渇く例もありますが、通常は喉が渇きません。舌の感覚は、麻痺して鈍くなっていることがあります。

その他

- ・ドライアイ：眼の表面が乾燥しているので、瞼を開けたり、閉じたりするのも大変です。
- ・関節炎：痛みがあちこち動きます。手足のしびれ感を伴うことがあります。
- ・食物アレルギー
- ・乾燥肌

- ・シェーグレン症候群：ドライアイや粘膜の乾燥、唾液腺の変化などが起こります。

特異的な感覚

酔っているような感覚、足が宙に浮いているような感覚、前頭部が押し出されるような感覚、脳が緩んだような感覚、耳管の中に粗い固まりがあるような痛み、頬に電気ショックが走るようなチクチク刺すような痛み、ベーコンが喉に入っているような感覚、左の肩に鉛が入っているような感覚、腕に紐が巻きつけられているような感覚、腕をつかまれているような感覚、などがあります。

MODALITY

- 暖かさ、暖かい部屋、暖かいものに包まること、暖房、温かい食事、外気など
- ❏ 寒さ、湿った寒い気候、冷たい食事、冷風、妊娠、季節の変わり目、感情の起伏、精神的ストレス、月経中、患部を下にして横になること、食事直後など

RELATIONS

- ・ Antidoted by : Camphora, Laurocerasus, Gelsemium, Nux vomica, Opium, Zincum, Valeriana
- ・ It antidotes : Arsenicum album, Laurocerasus, Turpentine
- ・ Compatible : Lycopodium, Nux vomica, Pulsatilla, Rhus toxicodendron, Stramonium, Antimonium tartaricum

Nux vomica マチン [怒りとイライラ、消化不良、仕事好き]

Strychnos nux vomica L.

BACK GROUND

Nux vomica は、非常に毒性の強いストリキニーネを含む、*Strychnos nux-vomica* の木の種からつくられます。別名 *poison nut plant* とも呼ばれています。インド、ビルマ、マレーシア、タイ、中国、オーストラリア北部などに分布するマチン科の常緑高木で、高さ5～13mに達します。砂質土壌に生育します。主な毒成分であるストリキニーネは、種のほか葉、樹皮にも含まれています。実はリング大の果実で、その中に白いゲル状の果肉とボタン状の種が入っています。

種は、ほぼ円盤状で径10～30mm、厚さ3～5mm、外面は淡灰黄緑色や淡灰褐色を呈していて、中央部から周辺に向かう光沢のある伏毛で密に被われています。両面の周辺および中央部はやや隆起しており、非常に硬いです。無臭で、味はきわめて苦いようです。

種子は、熟果を落ちる前に取り、水に浸して種子を分離します。落果から得た種子は成分が変化しているため、品質が劣るとされています。

11世紀のアラビアで医薬として使用され、中世ヨーロッパでも疫病の治療やネズミの駆除薬として、イ